

**製品名: OGT ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15125**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	115kDa

**抗原情報**

遺伝子名	OGT
別名	UDP-N-acetylglucosamine--peptide N-acetylglucosaminyltransferase 110 kDa subunit (EC 2.4.1.255) (O-GlcNAc transferase subunit p110) (O-linked N-acetylglucosamine transferase 110 kDa subunit) (OGT)
遺伝子 ID	8473.0
SwissProt ID	O15294
免疫原	ヒト OGT 由来の合成ペプチドポリクローナルアミノ酸範囲: 435-475

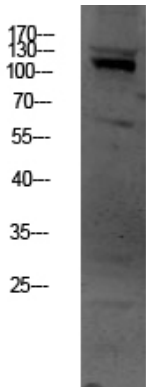
**背景**

この遺伝子は、セリンまたはスレオニン残基にO-グリコシド結合したN-アセチルグルコサミンを1個付加する反応を触媒する糖転移酵素をコードしています。リン酸化と糖転移はどちらも類似のセリンまたはスレオニン残基をめぐる競合するため、これら2つの反応は部位を巡って競合したり、立体的または静電的效果によって近傍部位の基質特異性を変化させたりする可能性があります。このタンパク質は、基質を最適に認識するために必要な複数のテトラトリコペプチド反復配列を含んでいます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2009年10月],触媒活性:UDP-N-アセチル-D-グルコサミン + ペプチド = UDP + N-アセチル-β-D-グルコサミニルペプチド,機能:セリンまたはスレオニンのヒドロキシルとのO-グリコシド結合を介して、ヌクレオチド活性化糖をポリペプチドに直接付加します。、オンライン情報:UDP-N-アセチルグルコサミン--ペプチド N-アセチルグルコサミニルトランスフェラーゼ 110kDa サブユニット,経路:タンパク質修飾; タンパク質グリコシル化,類似性:O-GlcNAc トランスフェラーゼファミリーに属します。、類似性:13個のTPR繰り返しを含みます。、サブユニット:2つの110 kDaサブユニットと1つの70 kDaサブユニットのヘテロ三量体。70 kDaサブユニットが別の遺伝子によってコードされているのか、それともタンパク質分解による分解もしくは110 kDaサブユニットの代替的な開始過程によって生じたものなのかは不明である(類似性に基づく)。HCFC1と相互作用する。、組織特異性:脾臓で高発現し、骨格筋、心臓、脳、胎盤では低発現である。肺および肝臓にも微量に存在する。、

## 研究分野

O-グリカンの生合成;

## 画像データ



HEPG2 ライセートのウェスタンブロット分析、抗体は1000倍に希釈した。二次抗体は1:20000倍に希釈した。